

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

評価年度

令和3年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立老人福祉センター-溪松園、相模原市立老人福祉センター-若竹園
指定管理者名	公益財団法人 相模原市まち・みどり公社
指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
施設設置条例	相模原市立老人福祉センター条例
施設の設置目的	老人に関する各種の相談に応ずるとともに、老人に対して健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を供与する施設(相模原市立老人福祉センター条例第2条)
施設概要	<p>【相模原市立老人福祉センター-溪松園】 所在地:相模原市緑区大島3339 規模:鉄筋コンクリート造平屋建 延床面積:2,055.32㎡ 備考:老人福祉センターA型 昭和47年9月1日開館</p> <p>【相模原市立老人福祉センター-若竹園】 所在地:相模原市南区若松2-1-38 規模:鉄筋コンクリート造2階建 延床面積:1,233.8㎡ 備考:老人福祉センターA型 昭和57年4月1日開館</p>
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目(単位)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
溪松園	利用者数合計(人)	54,960	55,258	53,279	49,995	43,448	0	4,864
	開所日数(日)	348	347	347	345	317	0	153
若竹園	利用者数合計(人)	52,221	50,111	49,730	48,603	40,621	0	4,679
	開所日数(日)	348	347	347	347	317	0	153

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年度は1年間施設を休館。令和3年度は4月1日から10月17日まで休館。

3 成果指標の達成度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
D	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の達成度は両施設とも80%を下回ったことから、評価基準により「D」評価とする。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和3年10月18日まで1年半以上にわたり休館しており、再開後も様々な利用制限が課されたことや、市民の意識の変化等から、コロナ禍以前と同等の利用実績とならないことは止むを得ないものとする。 ・再開後は、浴室やマッサージ機等の利用に時間枠を設け、合間に清拭消毒の時間を確保するなど、利用者の安全・安心の確保のため施設の運営に工夫をしたことを評価する。 ・今後も感染症対策を徹底しつつ、コロナ禍で減少した利用者を再び増加させられるよう、社会の変化を踏まえた自主事業の充実や施設のPRIに力を入れていただきたい。

指標	
指標名（単位）	一日平均利用者数（人）
指標式と指標の説明	年間利用者数÷開所日数 ※平成27年度、28年度は若竹園のみ指標の算出方法が異なるため記載対象外とする。

項目（単位）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
溪松園	目標値（人）	147	148	160	160	161	161	162
	実績値（人）	158.0	159.0	153.5	144.9	137.1	-	31.8
	達成度（%）	107.5%	107.4%	95.9%	90.6%	85.2%	-	19.6%
若竹園	目標値（人）			150	150	151	151	152
	実績値（人）			143.3	140.1	128.1	-	30.6
	達成度（%）			95.5%	93.4%	84.8%	-	20.1%

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	<ul style="list-style-type: none"> ・定員以上の参加者数のあった事業を「◎」、定員の半数以上の参加者数があった事業を「○」と評価し（新型コロナウイルス感染症の影響で市が定員を制限していた浴室関連事業、対面で実施する健康相談事業を除く。）、達成度が100%となることから、評価基準により「A」評価とする。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による休館や利用制限により、当初計画していた事業の多くが実施できなかったが、施設再開後に、感染症対策を講じながら最低限の事業を実施できたことを評価する。 ・季節を感じられる事業を行うことで「季節の移り変わりを実感したり、過去の思い出を振り返る」などの効果があると思うので、「変わり湯」以外にも季節を感じられる事業を増やしていただきたい。 ・施設側からの一方的なプログラム展開だけでなく、今後は地域住民や利用者との協働したプログラムも展開することで施設の活用につながると思う。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
医師などによる健康相談【溪松園】	12月・2月・3月	希望者に対し、医師や看護師から健康に関するアドバイスをを行う。 (参加数/定員)12月:9/10人、2月:17/20人、3月:4/20人	○
医師などによる健康相談【若竹園】	12月～3月	希望者に対し、医師や看護師から健康に関するアドバイスをを行う。 (参加数/定員)12月:2/12人、1月:6/20人、2月:2/5人、3月:9/20人	○
介護予防教室【溪松園】	3月	介護予防のための知識や日常生活で転倒しないための意識向上を図る。(参加数/定員)20/20人	◎
介護予防教室【若竹園】	3月	介護予防のための知識や日常生活で転倒しないための意識向上を図る。(参加数/定員:9/10人)	○

企画提案事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
ラジオ体操の集い【溪松園】	12月	全館でラジオ体操を放送し、実施を積極的に勧めていくことで利用者の健康増進を図る。 (参加数/定員)8/25人	○
かわり湯【溪松園】	12～3月	四季を感じていただく「かわり風呂」を提供します。 (参加数/定員) 12月:13/60人、1月:13/30人、2月:17/60人、3月:25/60人	○
かわり湯【若竹園】	1月・3月	四季を感じていただく「かわり風呂」を提供します。 (参加数/定員)1月:7/60人、3月:16/60人	○
ちりめん細工教室(全3回)【溪松園】	1～2月	ちりめん細工の作成により、伝統文化に触れ、また参加者同士の交流や、さらに手先を使うことにより脳を活性化させる教室。 (参加数/定員)7/12人、延べ21人参加	○
認知症サポーター養成講座【若竹園】	12月	認知症についての正しい知識を持ち、認知症の人やその家族を見守る応援者である「認知症サポーター」を養成する。 (参加数/定員)8/10人	○
絵手紙教室【若竹園】	1月	若竹園団体利用登録サークル指導者を講師とし、趣味の世界を広げる機会を提供する。 (参加数/定員)6/20人	△

5 利用者の満足度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
A	<ul style="list-style-type: none"> 達成度は両施設とも105%を超えており、評価基準により「A」評価とする。 実績値が過年度と比較すると低下しているが、これは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、市として利用制限を行っていることが影響しているものと推測する。その中でも目標を達成したことは評価する。 調査の母数については、両施設とも最低でも100人のサンプル数が必要ではないか。また、施設利用者だけでなく、地域にとっての施設ニーズもくみ取る必要があるのではないか。 調査結果の詳細な分析を行い、両施設のニーズの違いを明らかにした上で、高齢者に楽しみを与えられるだけでなく、地域に貢献できる場としての活用も検討していただきたい。

利用者満足度調査

調査手法/サンプル数	利用者へのアンケート調査を実施 実施期間:令和4年2月1日(火)～2月14日(月) 回答数:150件(溪松園49件、若竹園101件)
目標値の基準	総合的な満足度の設問に対する「満足」と「やや満足」の回答割合

項目 (単位)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
溪松園	目標値 (%)	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%
	実績値 (%)	97.6%	94.4%	96.5%	96.8%	96.2%	未実施	95.2%
	達成度 (%)	108%	104.9%	107.2%	107.6%	106.9%	未実施	105.8%
若竹園	目標値 (%)	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%
	実績値 (%)	98.1%	97.8%	97.2%	99.2%	99.0%	未実施	94.8%
	達成度 (%)	109.0%	108.7%	108.0%	110.2%	110.0%	未実施	105.3%

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年度は施設の利用を休止したことから、調査は未実施

その他の取組

取組事項	時期	取組内容
ご意見箱	通年	施設受付にご意見箱を設置し、利用者からの意見要望等を随時受け付けている。受け付けた内容は、掲示板に回答を掲示し、対応に努めている。

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	・本体事業収支、全体収支ともに黒字であり、団体本体の経営状況についても特段の問題がないため、評価基準により「S」評価とする。

施設の収支概要

※直近3年間について記載

(千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収入 (a)	105,951	114,390	110,838
指定管理料	100,886	100,886	100,828
利用料金収入	0	0	0
その他の収入	5,065	13,504	10,010
支出 (b)	95,443	81,074	94,350
人件費	32,458	25,785	29,808
本社管理経費	492	6,155	5,736
その他の支出	62,493	49,134	58,806
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)	10,508	33,316	16,488
自主事業収入 (d)	74	0	26
自主事業支出 (e)	667	0	239
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)	-594	0	-213
全体収支 【(c)+(f)】	9,914	33,316	16,275
備考	新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴う指定管理料の返還金は次のとおり(上記の収支概要には含まれていない。) R1年度 1,737,523円 / R2年度 34,310,651円 / R3年度 22,412,338円		

団体の財務状況

団体本体の経営状況について特段の問題はない。

7 管理業務の履行状況

検査方法	チェックリストに基づき、指定管理者へのヒアリング及び現地確認により検査を実施
実施時期	令和4年3月

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	○
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	○
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	

9 指定管理者の自己評価

新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴う1年半を超える長期間の施設閉鎖に加え、施設再開後の各種利用制限により、利用率が大幅に低下し、成果指標の達成は困難を極めた。しかしながら、このような状況下でも、感染症対策を講じた上で事業を実施することにより、コロナ禍で減少した高齢者の外出の機会を創出出来たことは高齢者福祉の向上に大きく寄与出来たと考える。事業実施後のアンケートにおいても「楽しかった」、「また参加したい」といった声が多く、また、事業参加者による新たなサークルの結成などもみられ、利用者同士の交流促進に寄与するとともに、コロナ禍であっても教養講座等の開催に対するニーズの高さが伺えた。

利用者満足度については、利用制限による不便さがある中でも、感染症の予防対策について一定の理解が得られ、目標を達成することができた。引き続き、安全・安心と利用者の利便性に配慮した感染症の予防対策を講じていきたい。

令和3年度は期中からの施設再開となり、開所期間がおよそ5か月間という短い中で、さらに、多くの利用制限が課された状況での施設運営となったため、平常時の評価基準を以って算出される成果指標や事業の実施状況の結果は致し方ないと考える。

次年度も引き続きコロナ禍での運営となるが、積極的な自主事業の展開や利用者サービスの向上を図るなど、利用率の回復に努めたい。

10 所管課意見

・新型コロナウイルス感染症の影響で約1年半の間、施設を休止していたが、その間も準備を行い、スムーズに利用再開できたことを評価する。また、施設の休止や利用制限に伴い実施が不要となった業務について契約変更を行うなど、経費の節減に努めた点を評価する。

・利用制限を行っている中でも、利用者満足度調査において継続して高い評価を得ていることは、高齢の利用者に寄り添った施設運営ができているものと評価する。今後も、指定管理者の自主的な取組による満足度の向上に期待する。

・施設の長期間の休止や再開後の利用制限により利用者数の低下が著しい状況にあるが、より利用しやすく親しまれる施設になるよう施設内の設備や装飾を工夫したり、様々なツールを用いて施設や自主事業をPRするなど、利用者増加の取組を期待する。

・コロナ禍においては、特に高齢者の介護予防や健康増進に資する取組が求められていることから、施設の既存の設備を十分に生かすとともに、地域とも積極的に連携して自主事業を強化することを期待する。

11 選考委員会意見

- ・長期間の休館を経て再開したが、利用控えや利用制限等により、施設の利用人数や事業の参加人数は大きく減少した。その中でも多くの事業を再開し、事業によっては多くの参加者を集めたことは評価できる。
- ・高齢者を対象とした施設であり、高齢者は新型コロナウイルス感染症による重症化リスクが高いことから、引き続き、利用者の安全安心を第一に運営していただきたい。また、今後の施設運営に当たっては、真に高齢者の健康増進や教養の向上に資するよう、事業を充実させるとともに、ウィズコロナの視点を持って、コロナ禍以前の施設の利用方法や利用形態を抜本的に見直すことも検討していただきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症が発生する前から、年々利用者が減少している。両施設とも新たな利用者の獲得が急務であることから、これまで利用が少なかった世代も利用したくなるよう、指定管理者の創意工夫により事業や設備を充実させることに加え、多方面に向けて積極的に広報するなど周知の工夫にも努めてもらいたい。また、高い利用者満足度を利用者数の増加につなげていく取組に期待したい。
- ・溪松園と若竹園では、立地状況から求められる地域ニーズが異なることが推察される。溪松園は、今後、周囲のサービス拠点としたり、地域の人により集えるような施設となると良いと思う。若竹園は、今後、グループ交流の場としての活用がより求められるようになるものと思う。
- ・和式トイレ、浴室のバリアフリー、防犯対策など、施設の設備が現在求められる水準と合わなくなってきており、コロナで利用者数が激減したことも合わせて考えると、大規模改修または建て替えがふさわしい時期に来ているように思われる。なお、建て替え等に当たっては、溪松園と若竹園では、立地する地域の違いから異なる地域ニーズを抱えていることが推察されることから、地域ニーズの違いに応えられるような個別の施設計画が求められるように思われる。

総合評価（自動判定）

B

(65/100)

